



# 今、小国町で動き出したこと

小国町役場 総務企画課  
政策企画担当主査  
横山 真由美

# 小国町の紹介

人口 約6,600人

面積 737.56km<sup>2</sup> (東京23区より大きい)

森林 90%以上

特徴 日本有数の豪雪地帯



## 【もくじ】

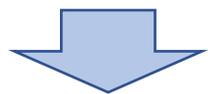
1. マルチワークのこと
2. 移住者コミュニティのこと
3. 小国高校のこと

マルチワークのこと



- ・小国町で働く人手が足りない
- ・技術や知恵を承継する人がいない
- ・繁忙期が決まっているので1年中は雇えない(農家など)
- ・移住したいけど仕事を探すのが大変
- ・自然の中で小国町らしい仕事をしたい

山形  
県内初!



## 「マルチワーク事業協同組合」 を設立!

(R3.11)

※特定地域づくり事業協同組合制度(総務省)を活用



山の麓の  
仕事とともに  
好きに生きる

おぐま  
おぐにマルチワーク事業協同組合

ogumar.jp

# マルチワークとは・・・

単独では通年雇用が難しい、季節ごとの仕事を組み合わせて

新たな働き方を提案！



町内の労働力不足解消！

移住者の働き方の選択肢を増やす！ ⇒ 移住・定住の促進

# おぐマルのしくみ

- ・年間を通して安定的な仕事の確保（社会保険等の加入もあり安心）
- ・たくさんの仕事と人に出会い、小国町でのキャリアプランを発見！
- ・「おぐまる」が住居、暮らし方、人脈づくりなども手厚くフォロー



マルチワーカー

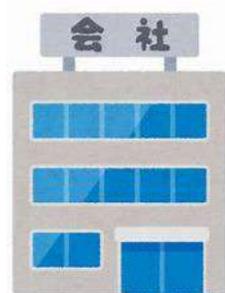
労働力の提供

給与支払（雇用契約）

3者のバランスがとても大切



おぐにマルチワーク事業協同組合



町内事業所（組合員）

業務の依頼  
派遣料支払

- ・必要な時期に必要な人手を確保（人手不足の解消）
- ・多様な人材による新たな価値観（商品開発などで活躍！）

- ・町内事業者の維持・拡大を推進
- ・町内外からの若者等呼び込み、地域の担い手を確保

# 現在7人のマルチワーカーが活躍しています！！



毎日が人生のギフト！



酒造会社、飲食店、農事法人、など多様な職種の19事業所が組合に加入



小国の実情を知ると同時に「こうすればいいんじゃないか」というアイデアが次々と浮かんでいきます。

大切なお酒がお客様の元へ届いて欲しいと願わずにはられません。そう思うくらい職人さんたちの努力と繊細な技術によって日本酒が作られていることを身を以て知ったから。

## マルチワーカー

小国町で暮らし働くなかで

- ・ 小国町の生活や人・伝統文化に出会い、仕事や暮らしを楽しんでいる
- ・ 「小国町をもっとよくしたい」という気持ちが芽生えている  
(彼らの新しい視点に期待)

## 地 域

仕事をくっつけることにより「小国のマルチワーク」というひとつの新しい価値を作った

## 移住者コミュニティ「つむぐ」のこと

- ・移住者を呼び込む支援はあるけど、その後のフォローは？
- ・移住者女子会を開いてニーズを聞いてみたい！

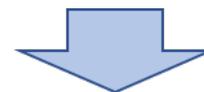


移住者女子会を開催！

## 移住者5人で集まってみると…

- ・子供の洋服問題
- ・雪が大変すぎる
- ・移住してどんなことが楽しい？
- ・なんか疎外感感じない？
- ・仲間づくりがしたい！

集まって良いことも困っていることも  
お互いに「共感」したかった！

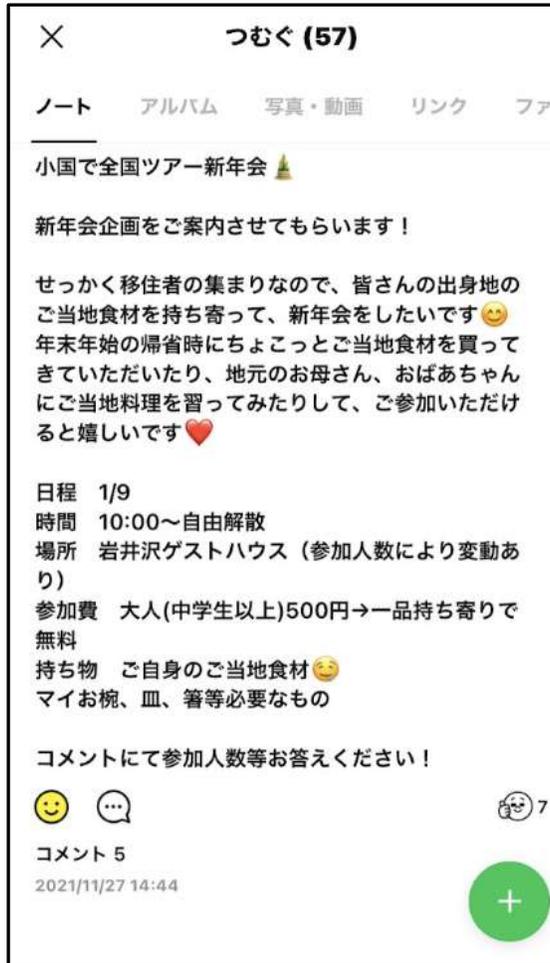


## 移住者コミュニティ「つむぐ」立ち上げ (R2.10)

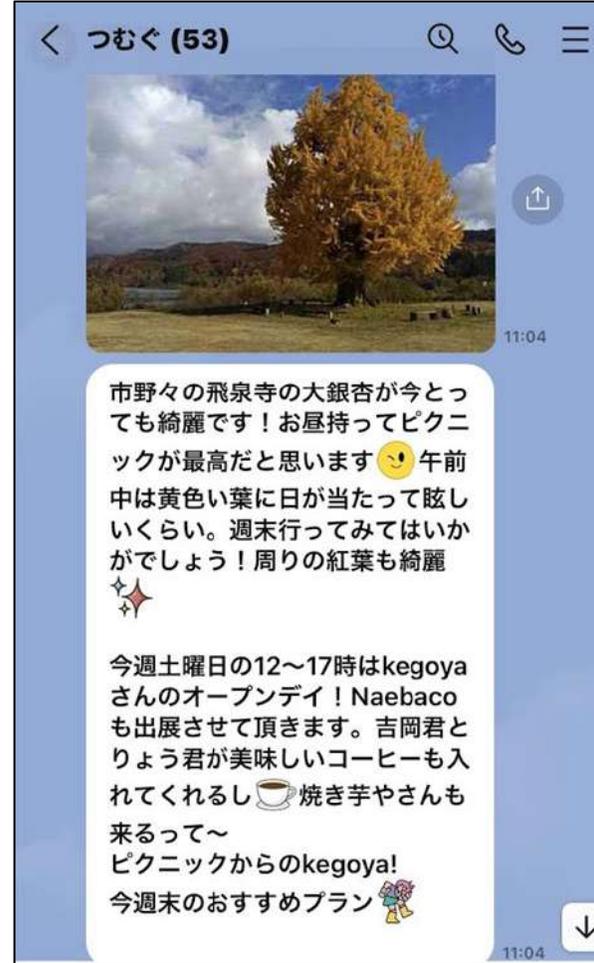
※ R6.6.30現在 会員113名 (地域の方含む)

# つむぐのしくみ 繋がる場の提供（グループLINEで繋がる）

## 移住者 × 移住者



## 移住者 × 地域



- ・ しくみはシンプルに
- ・ 繋がりゆるく
- ・ 地域の人との繋がりも大切に



### シェリー安部

「ほぐしやシェリー」店主  
奄美大島からパートナーの  
おじいちゃんの家へ移住  
(孫ターン)



### やすなちゃん (刺繍作家)

「Kukka」店主  
埼玉から結婚を機に移住  
「つむぐ」代表



### 吉岡くん

カレー屋オープンを目指して  
商工会に相談中。  
3年前に東京からUターン



### ゆーへーくん、あかねちゃん family

山の資源を販売する「きせつ家」を開業！  
東京から家族5人で移住し3年目。  
今年、家族がひとり増えました。



### ひかり

「naebaco」店主  
季節で採れる食材を  
使ったスイーツ店。  
スイス人のパート  
ナーとUターン移住

**起業家が続々誕生！  
ノウハウの共有  
わたしにもできる！**

# 小国町起業化支援助成金活用実績

年度	起業者数	うち女性	うち移住者	備考
H27	2	1		
H29	1			
H30	3	1		
R1	1			
R2	3	1	1	※つむぐ立ち上げ
R3	2	2	2	
R4	5	3	3	

OR2.4～女性の起業支援10万円かさ上げ

OR2.10～つむぐ立ち上げ

移住前のスキルを活かして起業する人もいれば、移住してから地域資源を活かして起業する人も！

# 『つむぐマルシェ』

## 今年6月9日に4回目を開催！！

- 出店数 32ブース
- ステージ 6件
- 来場者数 約500人



「2023輝く県民活躍大賞（若者部門）」受賞

JA女性部、地元青年団、町外からのブース出展

地元の和太鼓クラブ、吹奏楽サークル、お母さんたちのフラダンス、漫才、ダンスなど・・・多数出演

## 移住者

「共感」の場を持ったことで

- ・ 小国町での楽しみ方や困りごとを共有できる
- ・ 「自分もできる！」という連鎖⇒新しいことに挑戦！！
- ・ 移住者同士、移住者と地域の人がつながる速度が「倍速」になった
- ・ 地域の人に暮らしのノウハウを伝授してもらえる機会ができた

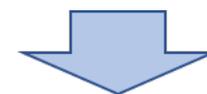
## 地域

- ・ 移住者の新しい視点や多様な価値観により自分たちの地域の良さを再確認  
「どうしてこんな田舎に来たの？」から「こんないい場所もあるよ」「こんなにおいしいものもあるよ」と地域の人々が移住者に伝える姿も⇒地域に自信！

## 小国高校のこと

- ・小国町にひとつの「公立高校」の危機
- ・人口減少とともに入学者が減り定員減

- ・地元の中学校からの進学も減少
- ・地域を担う若者の喪失＝町の衰退？



町内中学校から小国高校への入学者割合推移



## 県立小国高校魅力化の推進

(H31.4～)

- ① 白い森探究学（地域との協働）
- ② 地域みらい留学365・白い森留学

※R3から小国町教育委員会内に  
「高校魅力化推進室」を設置

小国高校  
公式マスコット「おぐまん」



# ① 白い森未来探究学（もりたん）

豊かな地域文化に浸り、地域の方との対話を通して自分の可能性を発見・表現していく3年間を通してのプロジェクト

## 1年生 地域に浸る

地域の人との関係づくり・人脈づくり  
大人との対話を通して自分の思いに気づく1年

大人としっかりコミュニケーションが取れるように東北芸術工科大学のコミュニティデザイン学科の先生、学生たちとの研修を全校生徒で行っています



## 2年生 地域を知る

### 自分の興味関心をテーマにしたマイプロジェクトの実践

- ・ 昆虫博物館を道の駅に
- ・ カフェをやってみたい
- ・ 自分で映画を製作したい



応援してくれる地域の方と



町長も「ボス役」で出演

脚本、撮影、編集を仲間とともに進め『アリスと狩人』を完成させ、町民を招いての完成上映会を行った（山形市、米沢市でも上映）  
マイプロアワード山形Summitで「地域特別賞」を受賞

## 地域が子どもたちの活動を全力でバックアップ！！

## 3年生 地域の一員になる

2年間の学びを振り返り、自らの進路を決めていく  
ひとりの地域人として自らを理解し、周囲と協働して自走できる人に！

## ②地域みらい留学365・白い森留学

### きっかけは小国高校の存続

- ・地域に高校があることは「まちづくり」においても重要  
⇒高校を残すための手段としての留学を取り入れる

### 生徒にとっては多様な学びのチャンス

- ・小さい小国町に居ながらにして多様性のある生徒との関わりが可能  
⇒町の良さの再確認、個人の貴重な学び

### 留学生自体が将来的な人材となる

- ・いずれ移住、関係人口など様々な形で小国町と関わってくれる

### 小国高校の生徒数 ( ) 内はうち留学生の数

	R2	R3	R4	R5	R6
1年生	24	16	29 (7)	27 (5)	22 (6)
2年生	22	28 (4)	21 (5)	27 (8)	28 (8)
3年生	22	21	24	16	24 (5)
合計	68	65 (4)	74 (12)	70 (13)	74 (19)



令和6年度 留学生

### 留学生の出身地

東京都 10名 神奈川県3名 埼玉県2名  
千葉県 3名 福岡県 1名  
計19名 (令和6年度現在)

## 高校生

「高校魅力化」を推進することで

- ・ 地域の魅力（人、場所、モノ、コト）に出会うことが可能
- ・ 留学生 × 地元で相互に新しい価値観が生まれる

## 地域

- ・ 小国町を選ぶ若者が増えていく（地元の中学生、町外の中学生、留学生）  
⇒ 地域が活性化していく
- ・ 子どもたちの成長のプロセスに関わり「やりがい」や「楽しみ」が生まれる

# まとめ

この3つの事業は、それぞれに起こっていることでありながらそれぞれではない。同時多発的に興したことによって⇒相乗効果がとても大きい

マルチワーカーや留学生は、ほとんどが「移住者コミュニティつむぐ」のメンバーであり、そこを「場」として混ざり合い、大きなうねりとなって、小国町にあらたな動きがうまれている  
地域の方もそのパワーに引っ張られて一緒に動き始めた！

人口減少は進んでいるが、このように小国町はとても「にぎやか」！  
新たな人材が加わり、これからますます楽しみ！



小国高校  
Home page



おぐマル  
Home page



きせつ家  
Instagram



@POWER\_TO\_SURVIVE

移住者コミュニティつむぐ  
Instagram



@TUMUGU\_OGUNI